



フォークロスコープ日
本 吉田道夫
都筑書店 (文庫)
徳間書店 (4/15刊・¥380)

八年前に出た『宇宙大密室』に、新しく三篇を加え(うち一篇は書き下ろし)、十七篇としたのが本書。十〜二十年前に発表された、主にSF周辺の作品が収められたもの。

見習い天狗の「鼻たれ」を主人公にした、ユーモア・ファンタジイ五篇と、皮肉な童話など計九作は、フォークロア、つまり民話風の(標題は、フォークロア+スコープの意)。とはいえ、どの話も、いわゆる民話的な、素朴な話ではなく、十分考えられた構成になっている。そして、この本自体が、著者の構成術の巧みさを見せてくれる。

「宇宙大密室」は、宇宙にある流刑星で起こる、完全密室殺人事件の話。これと、犯行前の犯人に、未来から追跡ロボットがやってくるコミカルな「凶行前六十年」あたりが、ミステリの色合い(純粹な謎解きではない)。「忘れられた夜」は、本書中もっとも長い作品で、ハーラン・エリスンの影響もあるという。崩壊し、文明から忘れられた廃墟、そこに住む少年の話。なるほど、「少年と犬」を思わせる部分もある。以上、名前を上げた作品の他では「イメージ冷凍室」が、特に記憶に残っている。アイデアが先駆的だった。(俊)